

我等が慈父大覺世尊は、人壽百歳の時中天竺に出現しましめて、一切衆生のために一代聖教をとき給ふ。仏在世の一切衆生は過去の宿習有つて仏に縁あつかりしかば、すでに得道成りぬ。我が滅後の衆生をばいかんがせんとなげき給ひしかば、八万聖教を文字となして、一代聖教の中に小乗經をば迦葉尊者にゆづり、大乘經並びに法華經・涅槃等をば文殊師利菩薩にゆづり給ふ。但し八万聖教の肝心・法華經の眼目たる妙法蓮華經の五字をば迦葉・阿難等にもゆづり給はず、又文殊・普賢・觀音・彌勒・地藏・竜樹等の大菩薩にもさづけ給はず。此等の大菩薩等ののぞみ申せしかども仏ゆるし給はず。大地の底より上行菩薩と申せし老人を召しだして、多宝仏・十方の諸仏の御前にして、釈迦如来七宝の塔中にして、妙法蓮華經の五字を上行菩薩にゆづり給ふ。

其の故は我が滅後の一切衆生は皆我が子なり、いづれも平等に不便にをもうなり。しかれども医師の習ひ、病に随ひて薬をさづくる事なれば、我が滅後五百年が間は迦葉・阿難等に小乗經の薬をもつて一切衆生にあたへよ。次の五百年が間は文殊師利菩薩・彌勒菩薩・竜樹菩薩・天親菩薩等、華嚴經・大日經・般若經等の薬を一切衆生にさづけよ。我が滅後一千年すぎて像法の時には薬王菩薩・觀世音菩薩等、法華經の題目を除いて余の法門の薬を一切衆生にさづけよ。末法に入りなば迦葉・阿難等、文殊・彌勒菩薩等、薬王・觀音等のゆづられしところの小乗經・大乘經並びに法華經は、文字はありとも衆生の病の薬とはなるべからず。所謂病は重し薬はあさし。其の時上行菩薩出現して妙法蓮華經の五字を一閻浮提の一切衆生にさづくべし。其の時一切衆生此の菩薩をかたきとせん。所謂猿犬のいぬをみるがごとく、鬼神の人をあだむがごとく、過去の不輕菩薩の一切衆生にのりあだまれしのみならず、杖木瓦礫にせめられし、覺徳比丘が殺害に及ばれしがごとくなるべし。

其の時は迦葉・阿難等も或は靈山にかくれ、恒河に没し、彌勒・文殊等も或は兜率の内院に入り、或は香山に入らせ給ひ、觀世音菩薩は西方にかへり、普賢菩薩は東方にかへらせ給ふ。諸經は行ずる人はありとも、守護の人なければ利生あるべからず。諸仏の名号は唱ふるものありとも、天神これをかごすべからず。但小牛の母をはなれ、金鳥のたかにあへるがごとくなるべし。其の時十方世界の大神一閻浮提に充滿して四衆の身に入り、或は父母をがいし、或は兄弟等を失はん。殊に国中の智者げなる持戒げなる僧尼の心に此の鬼神入つて、国主並びに臣下をたほらかさん。此の時上行菩薩の御かびをかほりて法華經の題目南無妙法蓮華經の五字計りを一切衆生にさづけば、彼の四衆等並びに大僧等此の人をあだむ事、父母のかたき宿世のかたき朝敵・怨敵のごとくあだむべし。其の時大いなる天変あるべし。所謂日月蝕し、大いなる彗星天にわたり、大地震動して水上の輪のごとくなるべし。其の後は自界叛逆難と申して国主・兄弟並びに国

中の大人を打ちころし、後には他国侵逼難と申して隣国よりせめられて、或はいけどりとなり、或は自殺をし、国中の上下万民皆大苦に値ふべし。此ひとえに上行菩薩のかびをかをほりて法華經の題目をひろむる者を、或はのり、或はうちはり、或は流罪し、或は命をたちなんどするゆへに、仏前にちかいをなせし梵天・帝釈・日月・四天等の、法華經の座にて誓状を立て、法華經の行者をあだまん人をば、父母のかたきよりもなをつよくいましむべしとちかうゆへなりとみへて候に、今日蓮日本国に生まれて一切經並びに法華經の明鏡をもて、日本国の一切衆生の面に引き向けたるに寸分もたがわぬ上、仏の記し給ひし天変あり地天あり。定んで此の国亡国となるべしとかねてしりしかば、これを国主に申すならば国土安穩なるべくは、たづねあきらむべし。亡国となるべきならばよも用ひじ、用ひぬ程ならば日蓮は流罪・死罪となるべしとしりて候ひしかども、仏いましめて云はく、此の事を知りながら身命ををしみて一切衆生にかたらずば、我が敵たるのみならず一切衆生の怨敵なり、必ず阿鼻大城に墮つべしと記し給へり。

此に日蓮進退わづらひて、此の事を申すならば我が身いかにもなるべし。我が身はさてをきぬ、父母・兄弟並びに千万人の中にも一人も随ふものは国主万民にあだまるべし。彼等あだまるゝならば仏法はいまだわきまえず、人のせめはたへがたし。仏法を行ずるは安穩なるべしとこそをもうに、此の法を持つによて大難出来するは、しんぬ此の法を邪法なりと誹謗して悪道に墮つべし。此も不便なり。又此を申さずば仏誓に違する上、一切衆生の怨敵なり。大阿鼻地獄疑ひなし。いかんがせんとをもしかども、をもひ切つて申し出だしぬ。申し始めし上は又ひきさすべきにもあらざれば、いよいよつより申せしかば、仏の記文のごとく国主もあだみ、万民もせめき。あだをなせしかば、天もいかりて日月に大變あり。大せいせいも出現しぬ。大地もふりかへしぬべくなりぬ。どうちもはじまり、他国よりもせめたり。仏の記文すこしもたがわず。日蓮が法華經の行者なる事も疑わず。

但し去年がまくらより此のところへにげ入り候ひし時、道にて候へば各々にも申すべく候ひしかども申す事もなし。又先度の御返事も申し候はぬ事はべちの子細も候はず。なに事にか各々をばへだてまいらせ候べき。あだをなす念仏者・禅宗・真言師等をも並びに国主等もたすけんがためにこそ申せ。かれ等のあだをなすはいよいよ不便にこそ候へ。まして一日も我がかたとて心よせなる人々はいかんがをろかなるべき。世間のをそろしさに妻子ある人々のとをさがるをばことに悦ぶ身なり。日蓮に付きてたすけやりたるかたわなき上、わづかの所領をも召さるゝならば、子細もしらぬ妻子所従等がいかなげかんずらんと心ぐるし。

而も去年の二月に御勸氣をゆりて、三月の十三日に佐渡の国を立ち、同月の二十六日にかまくらに入り、同じき四月の八日、平さえもの尉にあひたりし時、やうやうの事どもといし中に、蒙古国はいつよすべきと申せしかば、今年よすべし。それにとて日蓮はな

して日本国にたすくべき者一人もなし。たすからんとをもわしたまうならば、日本国の念仏者と禅と律僧等の頸を切つてゆいのはまにかくべし。それも今はすぎぬ。但し皆人のをもひて候は、日蓮をば念仏師と禅と律をそしるとをもいて候。これは物のかずにてかずならず。真言宗と申す宗がうるわしき日本国の大なる呪咀の悪法なり。弘法大師と慈覚大師、此の事にまどいて此の国を亡ぼさんとするなり。設ひ二年三年にやぶるべき国なりとも、真言師にいのらする程ならば、一年半に此の国にせめらるべしと申しきかせ候ひき。

たすけんがために申すを此程あだまるゝ事なれば、ゆりて候ひし時さどの国よりいかなる山中海辺にもまぎれ入るべかりしかども、此の事をいま一度平左衛門に申しきかせて、日本国にせめのこされん衆生をたすけんがためにのぼりて候ひき。又申しきかせ給ひし後はかまくらに有るべきならねば、足にまかせていでしほどに、便宜にて候ひしかば、設ひ各々はいとわせ給ふとも、今一度はみたてまつらんと千度をもひしかども、心に心をたゝかいてすぎ候ひき。そのゆへはするがの国は守殿の御領、ことにふじななどは御家尼ごぜんの内の人々多し。故最明寺殿・極楽寺殿の御かたきといきどをらせ給ふなれば、きゝつけられれば各々の御なげきなるべしとをもひし心計りなり。いまにいたるまでも不便にをもひまいらせ候へば御返事までも申さず候ひき。この御房たちのゆきずりにも、あなかしこあなかしこ、ふじかじまのへんへ立ちよるべからずと申せども、いかゞ候らんとをぼつかなし。

ただし真言の事ぞ御不審にわたらせ給ひ候らん。いかにと法門は申すとも御心へあらん事かたし。但眼前の事をもて知ろしめせ。隠岐の法皇は人王八十二代、神武よりは二千余年、天照太神入りかわらせ給ひて人王とならせ給ふ。いかなる者かてきすべき上、欽明より隠岐の法皇にいたるまで漢土・百濟・新羅・高麗よりわたり来たる大法秘法を、叡山・東寺・園城・七寺並びに日本国にあがめをかれて候。此は皆国を守護し国主をまぼらんためなり。隠岐の法皇、世をかまくらにとられたる事を口をしとをぼして、叡山・東寺等の高僧等をかたらひて、義時が命をめしとれと行ぜしなり。此の事一年・二年ならず、数年調伏せしに、権の大夫殿はゆめゆめしろしめさゞりしかば一法も行じ給はず、又行ずとも叶ふべしともをぼへずありしに、天子いくさにまけさせ給ひて、隠岐の国へつかはされさせ給ふ。日本国の王となる人は天照太神の御魂の入りかわらせ給ふ王なり。先生の十善戒の力といひ、いかでか国中の万民の中にはかたぶくべき。設ひとがありとも、つみあるをやを失なき子のあだむにてこそ候ひぬらめ。設ひ親に重罪ありとも子の身として失に行はんに天うけ給ふべしや。しかるに隠岐の法皇のはぢにあはせ給ひしはいかなる大禍ぞ。此ひとへに法華経の怨敵たる日本国の真言師をかたらはせ給ひしゆへなり。

一切の真言師は灌頂と申して釈迦仏等を八葉の蓮華にかきて此を足にふみて秘事とするなり。かゝる不思議の者ども諸山諸寺の別当とあをぎてもてなすゆへに、たみの手

にわたりて現身げんしんにはぢ恥にあひぬ。此の大悪法又かまくらに下りて御一門をすかし、日本国をほろぼさんとするなり。此の事最大事なりしかば弟子等にもかたらず、只偽いつはりをろかにて念仏と禅等計りをそしりてきかせしなり。今は又用ひられぬ事なれば、身命もおしまず弟子どもに申すなり。かう申せばいよいよ御不審あるべし。日蓮いかにいみじく尊くとも慈覚・弘法じかく こうぼうにすぐるべきか。この疑ひすべてはるべからず。いかにとかすべき。

但し皆人はにくみ候に、すこしも御信用のありし上、此までも御たづねの候は只今こん生計りの御事にはよも候はじ。定んで過去のゆへか。御所労の大事にならせ給ひて候なる事あさましく候。但しつるぎはかたきかたきのため、薬は病のため。阿闍世王は父をころしあじゃせ 仏の敵となれり。悪瘡身に出でて後、仏に帰伏し法華經を持ちしかば、悪瘡も平癒しへいゆ 寿命をも四十年のべたりき。而も法華經は「閻浮提人・病之良薬」とこそとかれて候へ。閻浮の内の人えんぶだいじんは病の身なり、法華經の薬あり、三事すでに相応しぬ、一身いかでかたすたすからざるべき。但し御疑ひの御わたり候はんをば力及ばず。南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經。

七月十二日

日 蓮 花 押

進上 高橋入道殿御返事

覚乗房伯耆はわき房読に度々よませてきこしめせ、きこしめせ。恐々。